

学級活動学習指導案（第3学年A組）

指導者 神石高原町立神石高原中学校
教諭 松井 一樹

- 1 日時 平成26年9月19日（金） 2校時
- 2 学級 第3学年A組 31名（男子13名，女子18名）
- 3 場所 3年A組教室
- 4 題材名 「災害後の暮らし」
学級活動 （2）カ ボランティア活動の意義の理解と参加

5 題材について

（1）生徒観

町内の神石・油木・豊松の3中学校が統合し，4月に神石高原町立神石高原中学校として新たなスタートを切った。昨年度，油木中学校では6～7月に防災ウィークスという防災に対する意識を高める強調週間を設け，防災に関わる各教科での授業・特別活動・学校行事を行った。

しかし，本年度はそういった防災教育を受けている生徒と受けていない生徒が同じ学級で生活している状況である。また，本学級の生徒に対するアンケート「自宅にいる時に災害にあったら，あなたが避難する場所はどこか知っていますか」という項目に対し，「知っている」と答えた生徒は51.6%であり，災害に対する意識・備えが十分ではない実態も見られる。

（2）題材観

特別活動の目標は「望ましい集団活動を通して，心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り，集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的，実践的な態度を育てるとともに，人間としての生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う」ことである。

この目標が示すように，特別活動は生徒に「生きる力」をはぐくむことを目指した学校全体の教育活動のひとつとして展開されていくべきものである。

平成23年3月に発生した東日本大震災が学校現場に与えた衝撃は大きく，改めて学校での防災教育の内容・あり方を考えていく必要がある。

防災教育には，防災に関する基礎的・基本的事項を系統的に理解し，思考力・判断力を高め，それらを働かせることによって防災について適切な意志決定ができるようにすることをねらいとする側面がある。また一方で，当面している，あるいは近い将来予測される防災に関する問題を中心に取り上げ，安全の保持増進に関する自主的・実践的な能力や態度，さらには望ましい習慣の形成を目指して行う側面もある。

本題材は，学校や地域の防災や，災害時のボランティア活動の大切さについて気づかせ，理解を深めさせ，その時，自分に何ができるかという課題を考えさせていくのに有効な内容だと考え，設定したものである。

（3）指導観

前時に「災害後の暮らし」について学習した際の生徒の発言からは「…をしたらいい」といった案はよく出たが，「自分なら～する」といった自分に置き換えた考えが少ない実態が見られた。

そこで，「災害後に避難所で生活することになったら，中学生としてどんなことができるだろうか」という課題に絞り，くま手チャートというシンキングツールを使って自分に何ができるのかを思考させていく。その活動を通して，災害に対する備えの大切さや心構えなどに対する意識を高めさせていく。

思考させる過程において，理由を付けて発表させ合い，自分の考えにはなかった多様な考え方に気づかせることで共感的人間関係を深めさせていく。

また，協同的な学習を積極的に行うことにより，生徒の相互理解を促し，統合中学校の円滑な人間関係づくりを図っていく。

6 題材の目標

災害時等の非常時のボランティア活動の大切さについて理解を深めさせ，地域社会の一員として自ら行動できる内容を考えることができる。

7 言語活動の充実に向けて

- シンキングツール（くま手チャート）を使って，自分の考えを具体的に書く。
- 仲間の意見を聞いて，自分の考えを深め，新たな考えに気づく。

8 題材の評価規準

観点	集団生活や生活への 関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
評価 規準	・防災に対する重要性や必要なことに気づき，進んで備えようとしている。	・避難所にいる時の適切な行動として自ら実践したいことを考えることができる。	・災害が発生した際に，家庭・地域や社会の一員として行動すべきことを理解することができる。

9 事前の学習活動

期日	活動の場	学習活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿 (評価方法)
6月27日 (金)	学級活動	<ul style="list-style-type: none"> ・災害後の暮らしについてどのような状況が起こりえるか，自分の考えをまとめる。 ・災害後の暮らしをよりよくするために，家庭や地域でどんなことができるだろうかを班内で交流して発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を守るだけでなく，自分たちが助ける側になれることを気づかせる。 	【知識・理解】 ・災害が発生した際に，家庭・地域や社会の一員として行動すべきことを理解することができる。 (くま手チャートの内容)

10 本時の展開

(1) 本時の目標

災害時に避難所にいると想定し，適切な行動について考えることができる。

(2) 準備物

くま手チャート図（グループ用），ペン，付箋，マーカー，新聞紙，紙，ホワイトボード，資料用写真，資料「大分合同新聞社(H23 3/20)の記事『逆境から立ち上がる～中学生に広がった奉仕の輪』」，まとめワークシート

(3) 学習展開

	学習活動	予想される生徒の反応（・） 指導上の留意点（◇） （◆個別の指導の手立て）	目指す生徒の姿 (評価方法)
導 入	1 今までの振り返りをする。 ○前回に行った学習内容を振り返る。	◇前回に行った「災害後の暮らし」の学習内容を思い出させて，本時の学習内容につなげさせる。	
	避難所にいる時の適切な行動について考えてみよう。		
	3 本時の学習の流れを確認する。	◇簡潔に説明し，見通しを持たせて学習に取り組みさせる。	

展開	4 災害後の暮らし（避難所）をイメージさせる資料を見る。	◇視覚的支援を行い、思考の手助けにする。	教	自己決定の場
	5 各自で、災害後の避難所での暮らしについて考える。 （個人思考…ワークシート） 「災害後の避難所ではどのようなしんどい状況が起こりそうか。」	【予想される生徒の反応】 ・非常時の備品を持ってない人がいる。 ・電気・ガス・水道・風呂が使えなくなる。 ・ケガ人や、体調を崩す人がいる。 ・トイレを使う時に困る。 ・プライバシーがない。（共同生活）	考	しんどい状況を具体的に考える時間を設ける。
	6 5について班内で意見交流する。 （集団思考）	◆「しんどい状況」がわかりにくい生徒には「不便な状況」と説明を加える。 ◇司会（班長）が意見交流を進める。		自己存在感
言語活動の充実	7 各自で自分にできることを考える。 「避難所での暮らしをよりよくするために、自分にできることはこれだ。」 （個人思考…付箋記入）	◇決めた視点にしたがって、自分の考えを付箋に書き出させる。		生徒が協力して学習できるように、班内意見交流の時間を設ける。 【思考・判断・実践】 ・避難所にいる時の適切な行動」として自ら実践したいことを考えることができる。（くま手チャートへの記述内容）
	8 7について班内で意見交流を行い、まとめる。 ①くま手チャートを配付して使い方を簡潔に説明する。	【予想される生徒の反応】 <人への関わり> ・高齢者と手をつないで歩く。 ・小さな子ども達の世話をする。 <作業> ・避難所の清掃をする。 ・荷物の積み降ろしや整理をする。 <ルール> ・行列の時などの順番を守る。 ・救援物資を平等に配る（もらう）。 ・ケガ人や体調が悪い人を優先する。		
	②説明を付け加えながらくま手の歯の部分に入るように、付箋を貼る。	◇くま手チャートを用いて、協同的に取り組ませ、多様な考えに触れさせながら、自分の考えを整理させる。 ◆机間指導時に、自分たちが助ける側になれることに気づかせる。		
9 発表する。	【発表例】 『私たちの班では、避難所の暮らしをよりよくするためにできることを3つの視点で考えました。一つ目は人への関わり方です。例えば、高齢者の方が歩く時には一緒に手をつないで歩く、また、子ども達と一緒に遊んだり悪いことをしていたりしたら注意する、という事が出ました。二つ目は…です。』		共感的人間関係	互いの意見を認め、大事にさせる。

		◇これまで出ていない意見があれば付け加えて発表させる。 ◇自分の班で出なかった意見があればワークシートにメモさせる。	
まとめ	10 資料を読む。 「大分合同新聞社 (H23 3/20) の記事『逆境から立ち上がる～中学生に広がった奉仕の輪』」 11 学んだことを振り返り、自分の考えをまとめ、発表する。 「災害が発生して避難所に避難した際に、地域や社会の一員として行動しようと思うこと」	◇実際に中学生が行なった事例を紹介することで、話し合いで出なかったことなど視野を広げさせる。	自己決定の場 本時で学んだことや仲間の発表を基に、まとめを書かせる。
生徒のまとめ例 ・自分のことだけでなく、周りの人のことや状況も考えて行動する。具体的には小さい子どもの世話をしたり、高齢者に付き添って歩くなど介助をする。 ・周りにも迷惑をかけることになるので、避難所のルールを守るようにする。日頃から社会のルールや学校の決まりなども守る意識を持つようにする。			

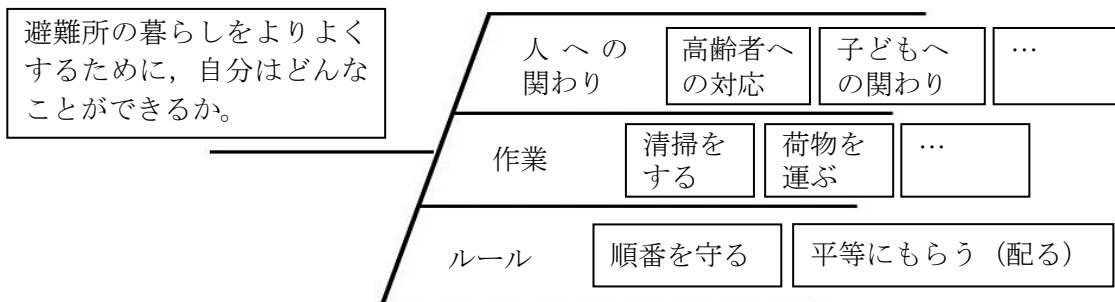
11 事後の学習活動

期日	活動の場	学習活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿 (評価方法)
9月26日 (金)	学級活動	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域社会で自分ができることを再確認しあい、地域防災への関心を高める。 各自が決めた災害時の備えで必要な物・必要な事項を交流し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自らの生活への備えだけでなく、ボランティア活動などで地域に貢献することの大切さを感じさせる。 	【関心・意欲・態度】 <ul style="list-style-type: none"> 防災に対する重要性や必要なことに気づき、進んで備えようとしている。(ワークシート)

12 資料等

<シンキングツール>

○くま手チャート



<板書計画>

本時の目標 避難所にいる時の適切な行動について考えることができる。

活動の流れ

- 1 今までの振り返り
- 2 課題の確認
- 3 資料を見る
- 4 個人で考えた事を班内交流①
- 5 個人で考えた事を班内交流②
- 6 各班の発表
- 7 振り返り・感想（個人）
- 8 本時のまとめ

避難所で、どんなしんどい状況
がおこるだろうか？

- ・電気・水道が使えない。
- ・トイレが不便になる。
- ・水や食べ物が足りない。
- ・ケガや病気になった人も多い。
- ・プライバシーがない。

避難所の暮らしをよりよくする
ために、自分はどんなことが
できるか？

くま手チャート

くま手チャート

くま手チャート

くま手チャート

くま手チャート

くま手チャート